学校法人藤島学園　　令和７年度

令和８年４月

自己評価表

１．経営・運営

新制度移行から 8 年目。収支の状況、運営の流れ等については安定的に運営できてはいる。少子化の影響で園児数が減少していることから、定員の見直しを実施した。保育の運営においては、放課後の保育の運営についての課題が残る。夏季保育の在り方や、ゆうがお教室・ひまわり教室の過ごし方については、未だ模索が続いている。１年間のカリキュラムは安定的に充実させることができ、行事等についても、子どもの主体性を大切にしながらすすめていく形へと徐々に変化を遂げている。ICT の活用についても定着してきており、運用もスムーズである。広報としてのインターネット・SNS の活用については、人材面の余裕のなさから、追いついていないのが現状である。日頃の保育の様子や、子どもの育ちが伝わるような、記録と発信のあり方を模索している。経営としては、安定的な運営ではあるが、借入金の返済、修繕工事等々の支出、遊具や機器の老朽化や人件費・光熱費等の増の影響も明らかである。物価の上昇による影響も否めない。コスモスハウスにおいては、食育活動や造形活動、子育て相談の場としても機能しつつ、小学生との交流の場としての活用もはじめている。地域に根ざした子育て拠点としての環境整備にはまだまだ至らないものの、本園舎・分園舎とともに、地域開放に努めていくこととする。

２．教育・保育

分園舎における、乳児保育については、４月当初からの受入人数を増やしてのスタートであった。一方、スタッフの人数も増えていることから、連携・協働の在り方を見直す必要性を感じはじめている。以上児について、２クラス体制が主流になり、コンパクトに連携ができている。若手保育者が少しずつ育ってきており、バックアップは要るものの、自ら責任を持って動こうとする頼もしい姿が見受けられる。ミドルリーダーにおいては、少しずつ園内研修の中心となり、保育について語り合う場づくりに関わるようにしている。保育の質の向上にあたっては、外部講師を招いて園内研修の充実を図り、若手を中心に「学びのチーム」としての育成を試みている。全員での研修時間の確保が難しく、いかに学びを共有していくか、については、大きな課題である。フリールーム等の活用については、各部屋の使い方が定着してきており、遊びも多様になってきている。より充実した環境を整え、じっくりと遊びこめるようにしていきたい。日々の保育の中で、子どもとの話し合い場面を増やしていくことで、子どもの主体性を尊重したあそびや活動が増えてきている。「対話」を大切に保育を創る試みを、今後も増やしていきたいと考えている。７年度は、保育教諭の育休取得者が多数おり、日々の保育に余裕のない１年となった。若手・ベテランが協力して、どの学年においても質を確保しながら保育ができたことを評価したい。次年度以降、徐々に、今後の核となる人材育成を見据えて、環境を整えていくことを検討していきたい。

３．組織・その他

ICT を活用することで、情報共有がスムーズになる中で、一方的かつ事務的な情報共有に留まる傾向がある。日頃から、応答的なやりとりを大切にすることや、話合いや振り返りの時間を確保すること、また、園の取り組みの情報発信の方法についても見直していくことが必要である。